

# 令和4年第5回小規模多機能型居宅介護事業所

## 「紙ふうせん」運営推進会議議事録

日 時：令和4年12月22日（木）11：00～12：00

場 所：野栄福祉センター 1階和室

出席者：大木公正 伊藤良一 大木健守 伊野喜代司 及川大樹 太田奈津栄

市高齢者支援課 及川

〔 社協 局長  
紙ふうせん 佐藤 〕

●開会のことば 及川副委員長

●委員長あいさつ

●議題

（1）令和4年度10月・11月運営状況及び利用実績の報告について

委員長：以上報告がありました。何か質問はあるか。

及 川：このところ泊りが0人という状態が続いているが、これは職員不足のためか。

佐 藤：今のところ需要が無い。職員の都合がつけば利用は可能となっている。

委員長：紙ふうせんで泊り希望者を断っていることはないか。

佐 藤：それはない。

委員長：職員に負担がかかるとサービスの低下が心配されるが、現在の状態では手一杯なのか。

佐 藤：どうしても事情があれば泊りは受け入れる。

及 川：紙ふうせんはそんなに利益を出す必要はないと思うが収支はどうなのか。

局 長：1月から入院していた利用者が2人復帰し、介護度も上がるので多少収入は増える。

委員長：今、介護認定が厳しいとの声を聞く。どうなっているのか。

支援課及川：全国一律の認定調査票に基づいて本人の様子を見させてもらっているの  
で特別厳しいということはないと思う。

太 田：自宅に調査が来ると、高齢者はプライドがあるので何でも出来ると言ってしま  
う。入院しているときは介護度が高く出ることが多いと思う。

佐 藤：入院すると病院の方から区分変更を勧められることが多い。

委員長：現在の利用者数、職員数で赤字は出ていないのか。

局長：手元に詳しい資料がないが一昨年は赤字だったが、昨年は黒字だった。

委員長：ある理事から質問があつて、紙ふうせんは野栄地区の利用者が多いと言われるが地域密着なので、確かに栄地区の利用者が多いが問題ないと思う。

局長：地域に密着した施設なので地元の方が利用するのがベスト。

太田：本当はもっと他の地区にもできればいい。

局長：もともと市内3か所にできる予定だったようだ。

大木：地域包括センター西部と市役所内と2か所あるが、相談はどちらからでも来るのか。

佐藤：野栄地区だけでなく市内全域が対象なのでどちらの包括から相談は来る。

委員長：平均年齢が86歳だが統計をとるとどうか。

大木：2年前も平均が87歳なのでだいたいこれぐらいではないか。

委員長：野栄地区は100歳移乗の高齢者は何人ぐらいいるのか。

局長：野手地区3人、栄地区3人の6人となっている。

大木：コロナ関係はどうか。

佐藤：現在利用者で感染している人はいないが、11月の末に自分が感染してしまった。

太田：施設や小学校でも増えてきている。

伊野：ワクチン接種で重症化はしないようだ。

大木：年末の移動等で年明けも増加が予想される。

及川：秋を味わう会だが感染者を出さないためにどんなことに注意しているのか。

佐藤：以前のサンマ祭りのように利用者が居る所で調理はせず、厨房で厨房スタッフが決められた衛生管理で調理している。食事中もパーテーションで飛沫を防ぎ、あまりおしゃべりしないようにしている。

太田：ボランティアの訪問はまだ行っていないのか。

佐藤：クリスマス会で呼びたかったが、コロナ感染が増加しているので見合わせた。

委員長：レクリエーション、カラオケなどはやっているのか。

佐藤：カラオケ世代なのでみなさん歌は好き。マイクを使わないで歌っている。ゲームなども午前中にやっているし、午後は個別にパズルをやったり塗り絵をしたり過ごしている。

大木：マスク生活が続いているが、利用者のマスクが汚れたりした場合は施設の物を利用するのか。マスクの予備はあるのか。

佐藤：利用者には基本、自分の家からマスクをしてきてもらうが、汚れたりした場合は備蓄があるので施設のマスクを差し上げている。

(2) 外部評価について説明と

- 閉会のことば 及川副委員長